



「給食の小魚とシイタケは、子どもに食べないで残すように言っているのよ。牛乳も。」米沢の友人にそうわれてどきっとしました。東京の友人は、毎日子どもにお弁当を持たせているそうです。多くの母親が子どもの給食について不安をおぼえ、毎日の食材の買い物で悩み続けています。そのことは「神経質な人」で片付けられる問題でしょうか。原発事故後、食品に対する暫定規制値「年間線量5ミリシーベルト以下」が決められ、翌2012年4月1日からは「年間1ミリシーベルト以下」の基準値に変更されました。2011年5月31日、国会において細川厚生労働大臣（当時）が、原発労働

者の放射線被ばくに関する労災は、1976年以降で10件、その被ばく線量は5.2ミリシーベルト～129.8ミリシーベルトで、白血病で認定と答弁しています。大人の男性が、5.2ミリシーベルトで白血病になる場合もあると国が認めています。

食材のセシウム検査だけで安心しろと言われても、不安は募る一方です。ストロンチウムは骨の中のカルシウムと置き換わり、長期にわたって放射能を出し続け、白血病を引き起こします。品川区では母親たちの行政に対する働きかけで、給食食材検査にストロンチウムが加わりました。

チェルノブイリでは、放射能は小児甲状腺がんだけでなく、白血病、白内障、心疾患などの様々な病気を引き起こすと言われていています。安全な給食を子ども達に食べさせたい。そのためには、子ども達が食べる食材の規制値をより低く見直し、細かく検査する必要があります。

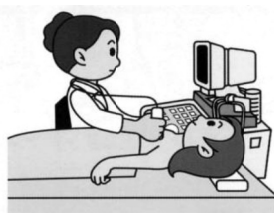


早期発見、早期治療 乳腺エコー検査やっています！

実施日：毎週 **金曜日、土曜日**

（土曜日は、女性スタッフが検査を担当します）

- ・乳がんは、女性のかかるがん第一位。
- ・特に40歳以上の方、年一回の検査をおすすめします。
- ・エコー検査は、放射線被ばくがなく、痛みもありません。（マンモグラフィー検査はX線を使用）



お問い合わせ、ご予約は、お電話でどうぞ ☎024-573-9335

編集後記

「集団的自衛権」の行使容認が閣議決定されました。「福島原発事故の健康被害はこれからもありません」と言い切った同じ口から出る「国民を守るため」という言葉のなんと軽いことか。被ばくの事実と向き合い、隠さず発信していくことが、戦争を止める力にもなるのだと、あらためて思えた7月1日でした。（え）

福島市民検診早めに受診しましょう！

※受診期間は10月31日までです

個別検診は
ふくしま共同診療所でも
受けられます



- 次の検診も受けられます
- 肝炎ウイルス検査
 - 大腸検診（一次）
 - 胸部検診（一次）
 - 前立腺がん検診（一次）
 - 骨粗しょう症検診

ふくしま共同診療所 Newsletter

ここから通信

第6号 季刊-夏号-

診療時間：9:30-12:30 / 14:30-18:00

	日	月	火	水	木	金	土
午前	●	●	●	-	●	●	●
午後	●	-	●	-	●	●	●

診療科目：内科/放射線科/循環器科/リウマチ科
〒960-8068
福島市太田町20-7 佐周ビル1階
TEL:024-573-9335 FAX:024-573-9380

6月10日、県民健康調査の第3回甲状腺評価部会を傍聴してきました。そしてその内容があまりにひどいことに大変驚かされました。会議で議論されていたことは、これまでの県立医大の説明と明らかに矛盾しています。会議の内容はきちんと報道されるべきだと思いました。

その上で、「A2判定（5mm以下の結節または20mm以下のう胞がある）」と診断され次回の検査は2年後、また「B判定（5.1mm以上の結節や20.1mm以上のう胞がある）」で、二次検査が必要な場合に、半年以上待たされることもある今の検査体制のままで大丈夫なのかと疑問を持ちました。

※「C判定」直ちに二次検査を要するもの

「甲状腺がんは予後がいい」と言えますか？ 多くの子どもがリンパ節転移しているのに

これまでの県立医大の検査結果に対する説明

- ・小児の甲状腺がんの発症は、原発事故による放射線被曝の影響とは考えられない。
- ・甲状腺がんは「予後のいいがん」である。

会議での県立医大、鈴木眞一教授の発言内容

（「過剰診察、過剰治療であり、症状の出ていない子どもたちに必要のない手術をしているのではないか」との委員から発言に対して）

- ・過剰な診療をして、甲状腺がんの手術をしている訳ではない。極めて限定した人、治療が必要だと思われる人だけを二次検査（細胞診）している。
- ・5mm以下の結節は、明らかに肺に遠隔転移、またはリンパ節に転移している人、5～10mmの結節については、明らかに悪性度の高いものや場所の悪いものを二次検査し、場合によって手術をしている。取らなくていいがんを手術したことはない。
- ・声が出ないなど声に影響があるとか、リンパ節転移、腫瘍の浸潤などを判断基準にしている。
（※「浸潤」：がんが周辺臓器に染み込むように広がること）
- ・小児の甲状腺がんのリンパ節転移は圧倒的に多く、一般的には、少なくとも50%、多い施設では70%以上見つかる。（福島の甲状腺検査におけるリンパ節転移の数は明らかにしなかった。データの公表は次回以降の検討事項となった。）

県民健康調査＜二次検査結果＞

（6月10日発表）

- ・甲状腺がんおよび疑いの子ども 90名
※1名は、手術後良性結節であったため、89名と報道されているものもあります
- ・手術を受けた子ども 51名
- ・年齢（震災当時）6歳～18歳
- ・性別：男性32名、女性58名
- ・腫瘍径：5.1mm～40.5mm
（2014年3月31日現在 287,056人検査実施）

ふくしま共同診療所 報告会

とき：9月7日（日）
13時～16時30分

今回は
福島市です

ところ：コラッセふくしま3階企画展示室
JR福島駅西口徒歩3分

＜報告＞松江 寛人 院長
「甲状腺エコー検査から見てきたもの」

＜お話＞崎山 比早子 医師
「非がん性放射線障害について
— 老化促進に関して」

プロフィール
医学博士/マサチューセッツ工科大学研究員
国会事故調査委員会委員として
「低線量放射線の健康影響」を担当

託児あります

お母さんの

アンテナ

伊達市のお母さんからです

夏休み

保養でモンゴルに行ってきます

中学1年生の娘が、7月末からモンゴル8日間の旅に行きます。参加者は小学校高学年から高校生までの10人です。娘は初めての海外旅行です。

遊牧民の伝統生活や習慣を自分の目で見て体験してきて欲しいと思います。ゲルに泊まり、馬に乗り、遊牧民の食事、馬乳酒や、ホルホッグ(羊の蒸し焼き)、夜は地平線の端から端までこぼれ落ちんばかりの天の川がみえるそうです。とても楽しみにしているようです。大草原ではトイレはないそうで、いくら遠くにいっても見えるそうです(;´д`)

初体験のことばかりで不安もあるでしょうが、自然と共存しているモンゴルの暮らしに、さて中学1年生の娘はなにを感じてくるでしょう。

帰ってきたらまたご報告します。



まだ間に合う！
和歌山の美しい海、山、川で
保養しませんか？



保養先はもうお決まりですか？
まだ募集に空きがあります！

保養先	和歌山県串本町……野苺荘 (海の家) 和歌山県すさみ町…桜井宅 (山の家)
期間	8月いっぱい対応しています (1週間前からの申し込み可)
参加費	滞在費は無料、交通費は一家族9万円まで助成 保険もあります。
ここでできること	自給自足体験、シュノーケリング、カヤック、釣り、 魚採りなどの川遊び、山登り、各種手作り体験
問い合わせ	南紀おたすけ隊 (担当：柴田)
申し込み先	umi.yama.j@gmail.com TEL/FAX 0735-67-0837

ひさくんによる スタッフ

インタビュー

趣味はゴルフ・読書
好きな食べ物は魚
魚だったら何でも大好き



土曜日担当 循環器内科医
みなと あきら
湊 明 医師

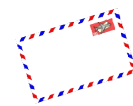
<時間をかけて話を真剣に聞くことから>

福島第一原発事故が起きるまで、原発の事はあまり気にしていませんでした。事故後、色々考えていたとき、大学の先輩である松江院長に声をかけられ、現在にいらっています。

診察して思うことは、患者さんが「公的なところに頼れない(受診結果を信用できない)」ということです。誰かの紹介で来院される方よりも、誰にも相談できずインターネットで当院を見つけて来院される方のほうがたくさんいるのです。驚きました。

お母さん達は、大きな不安をかかえています。その一方、医療側はその不安に真摯に対応しようとしていません。ですから、ここに来られる患者さんの話を真剣に聞く。そして出来る範囲で真摯に答えていく。できるだけ時間をかけて向き合っていく。ここから始めるよう心がけております。

ドイツからの手紙



ドイツの高校生から手紙とカンパが届きました

ふくしま共同診療所のみなさんこんにちは！

私たち、リュウネブルクのドルフ・シュタイナー学校(北ドイツハンブルクに近い)高校生11人は、1週間毎日授業で原子力について勉強しました。

私たちも毎年、ゴアレーベン※1で、原子力の反対運動に参加しています。そして、原発を続けるのは解決策ではなく、危険性がとても高いことをよくわかってます。

授業の前に高校生3人がノイロイターさん※2の話聞いて、彼に特別に授業をしてもらうことを思いました。それでノイロイターさんは私たちの学校へ来てくれて福島の事故とその災害などについて教えてくださいました。

ノイロイターさんのその講演に私たちは心動かされました。皆さんの懸命な働きぶりも詳しく話してくれました。私たちは皆さんをとても尊敬しています。これからも頑張りましょう。そして諦めないで下さい。私たちの学校で寄付を集めました。そのお金と私たちの気持ちを手紙にして送ります。写真も一緒に送ります。

Dan Leon Platt, Leonie Wild, Lisa Grown, Karo Schuppert, Malena Reder, Hechthaus, Nina Uthel, Robert Schuppe, Max Schütte, Martin Bralberg
リュウネブルクのドルフ・シュタイナー高校生より

見て歩き



※1 ゴアレーベン
北ドイツのリュヒョー・タネンベルク郡の小村。1977年に同地に核燃料リサイクルセンターの建設が告げられた時から、「全原発の即時撤去、廃止」「最終処分場絶対反対」の闘いを続けている村。

※2 アレクサンダー・ノイロイター
環境写真家で原子力エネルギー、化学汚染などをテーマに活動。チェルノブイリ体験の写真集発刊。ドイツ民主共和国の天然ガス採掘の結果である水銀汚染について、TVの科学番組レポートなどの実績もつ。2013年に福島を訪れ、3・11をテーマに写真集「360°」(右写真)発刊。



世界で高い評価を受けている 短編アニメーション 『Abita (アビタ)』をご紹介します - 原発事故の影響を受けたある子どもの話 -



制作者の1人は日本人。放射能の影響で外で遊ぶことができない「福島の子どもの夢と現実」をテーマに、水彩の流れるよう

な繊細で美しい映像・音響でシンプルにまとめられたアニメーション。日本ではほとんど取り上げられませんが、世界のさまざまな映画祭で上映され、高い評価を受けています。

※こちらで見ることができます

<http://vimeo.com/51297975>



【ここつう読者からの投稿(30代主婦)】

小さい頃、友達と川遊びをしていると川底に土の塊を発見した。さっそくこね始める。灰皿を作って父にプレゼントしようと思ったのだ。何とか形にしたものの、水分が抜けず固まらない。小さな板にのせて持って帰った。意気揚々と話す私に、母が一言「オメエ、それ牛ふんだぞ」聞けば母も幼い頃、同じようなことをして、同じように注意された経験があると言う。

この事件は我が家の「おバカ伝説」の一つとして今も語り草になっている。けれどこんなことが、親子三代に渡ってなされるかはわからない。これから私に娘が生まれたとしても、現状では子どもを川遊びさせたいとは思えないのだ。福島原発からもれ出た放射能は、白紙に墨を落とした「アビタ」の絵のように、私たちの心に消えることのない影をさしてしまった。

せめて散歩の道すがら「ママね、ここでこんなことしたんだよ」と話せる状態にしておいてあげたい。それも、もはや贅沢な夢なのだろうか。